ソウル訪問一カ月の感想

海　野　和三郎　（天文学教室）

学振の特定国派遣研究者として，ソウル大学校理科大学天文学科を中心に，5月下旬から6月下旬にかけての1カ月間，国際共同研究および「動力学的恒星物理学」の特別講義を行ってきた。まだ印象の新しいうちに思い出話を以下に述べることにしたい。

行ってみると，ソウル大学は緑したたる広大な楯状地に新しい建物のたった立派な大学であった。ソウル市の西南部冠岳山のふもとにあって，敷地面積は恐らく東大本郷キャンパスの約2倍ほどもあり，キャンパス問題で悩んでいる東大と比べると別天地の感があった。学生は，よく学びよくデモもする要領よさを身につけてきたということであるが，一般に朗らかで元気そうに見えた。学生の何分の1かは退学となる非常な競争社会であるが，入試の二次試験を年月をかけてていねいにやっていることになるのかもしれない。女子学生の割合も東大よりいくらか多いようであった。

ソウル市の住宅と道路は東京に比べ格段に立派であった。これに喫茶店よりも多いといわれる教会と大学を加え，文化国家のファンダメンタルズにおいて日本はもはや到底韓国にたち打ちできないのではないかと思えた。恐らく，この大発展のかげにどこかにしわ寄せがあって困難な状態におかれている人々も少なくないであろうが，文化的ファンダメンタルズの良さは必ず将来に対する遺産として残り，プラスが大きくマイナスを凌駕するものと考えられる。住宅は一戸建もアパート群も東京のものより平均してずっとよい。道路はいたるところ片側三車線に広い歩道のついた道が縦横に走り，交通渋滞が日常となってからもう何十年も放置されている東京の事情とはわけがちがうのである。現代という会社のつくるポニーという小型車を始め韓国自動車業界の隆盛は道路の建設，拡充を上回り，ソウル市を二分して東西に流れる漢江をはさんで朝夕の混雑は相当なものであるが，かつては3本しかなかった道路橋も十何本かになり，道路地下鉄の建設，拡充は急ピッチで進んでいる。漢江の南は新市街で，十数年前はすべて田んぼであったという。その新市街を東西に走る道路の一つにテヘラン路があり，その東端にオリンピック競技場がある。テヘランにはソウル路があるとのことで，シルクロードの東西の起点を再現する心意気であろうか。オリンピック競技場は主競技場ほかいくつか出来上っており，オリンピック村は巨大な公園地の一角に建設が進められていた。そのあたりの規模と構想をみると，名古屋市が逆立ちをしてもオリンピック誘致はちょっとおよばないという感じである。軍事費に相当な割合の国費を使っている韓国軍事政権に大きな文化事業ができて，平和な日本自民党政権では臨教審の議論はあるが大学の予算が実質的に困窮していく一方なのはどういうわけであろうか。

文化とは生活環境を改善し，人間性を高度に高揚させることであるということであるが，文化に対する意識において日本は韓国よりはるかに劣っているようにみえる。即ち，もし社会を構成する要素が政治，経済，文化の3つであるとするならば，日本では経済繁栄のために政治と文化があり，ヨーロッパ諸国，インド，韓国では文化のために政治と経済があるといってよいであろうか。繁栄した経済のおこぼれの文化の方が，繁栄しない経済の基礎の上につくられる文化より絶対値が大きいとする現在の日本の政治路線には，疑問を感じ

ざるを得ない。

韓国の大学教授の給料は一般公務員平均の約3倍であると聞いた。50年前私の父親は中等学校長をして，月給約200円ぐらいで当時としては悪くなかったが，その頃大学教授の月給は多分その約3倍くらいはあったと思われる。裁判官とともに公私にわたって高潔な生活をさせるための高給であったであろうか。いずれにしても，日本の現状では公務員としての大学教官の高給は考えられない。しかし，その代りというと語弊があるが，満足に図書も買えない貧弱な校費は何としても倍増してもらわなければならない。光熱水量費が校費の半分を占めるようでは大学という名もはずかしい気がするからである。大型計算機の使用は校費が少ないことがネックとなって低いレベルで頭打ちとなっている。東大理学部のようなところで，大型計算機を徹底的に使い，次々と改良の要求を出していくのでなければ，近い将来の日本のハイテクノロジーの根幹が危い。大学の校費をケチついて何が文化国家だと云いたい。

韓国の私立大学もまた立派である。日本でいえば慶応大学のような存在であると聞いていた延世大学はソウル旧市内西方にあって，多分東大より広い緑に包まれた美しい大学であった。門前の催涙ガスの残息が学生デモのあとを止めていたが，リベラルでかつアカデミックな空気が延世大学の特徴のように見受けられた。何よりも感銘を受けたのは天文台の存在であった。ちなみにわが国の私大で天文台を持っているところは一つもない。多分そう楽でもない大学運営において，私立大学が天文台を運営しているのは，自然史が自然哲学及び物質科学とともに自然科学の三脚の一つとして，その第一に尊重されている証拠である。わが国の場合，借りものの自然史と付け焼刃の自然哲学の上に物質科学を重点推進する傾向があるが，延世大学は学問の基本に忠実な方針を持っているものと見受けられた。一方，慶畿大学は日本でいえば早稲田大学といった感じの大学であると聞いているが，その新キャンパスの広大さには驚いた。これまでのキャンパスはソウル旧市街の東側にあり，敷地面積は東大本郷キャンパスの約2倍の緑したたる丘陵地であるが，これに加えてそのまた2倍の60万坪以上もある新キャンパスに現在3つの新建築とグラウンドがすでにできていた。東大がかつては立川移転が阻止され，今もキャンパス問題が深刻で小さな土地のために苦労しているのをみるとなさけなくなってくる。ちなみに，慶畿大学の新キャンパスはソウル市の南郊外，車で30分ぐらいの距離である。

韓国における対日感情の悪さをこれまでしばしば耳にすることがあった。しかし，私の受けた印象では，反日感情の底にはそれよりももっと強い親近感があるように思えた。日本統治の時代に迫害を受けた人達の多くは世を去り，生存者も高齢となって半ばは思い出を懐かしむ人となっているのである。8割方はわれわれと同じ顔をし，類似の言葉をしゃべり，多くの場合同じ感情の動きをするのである。神話の時代は先祖を共にし，平城平安の都づくり，仏教，美術工芸すべて朝鮮伝来が主であった。勿論，壬甲の乱の被害，植民地時代の精神的圧迫は今も深刻に伝えられる。しかし，TV等に頻度に表れる日本に対する報道と関心は反日感情以上のものであるのは間違いない。反日感情の起源は，その日本に対する親近感情が日本人に正しく受けとめられていないことによるいらだちである。日本人は韓国の現状についてあまりよく知っていない。韓国の住宅，道路，大学が日本よりもずっとよいことも知らないし，韓国の山山が緑になったことも知らないのである。新聞は，金大中氏や学生デモについて書き，日本に追いつき追いこせの工業力の充実について書いてはいる。しかし，韓国文化発展のすばらしさ，韓国人の日本に対する友情についてはふれたがらず，発展の陰の歪や表面的な反日感情により多くの関心があるようである。韓国人に対する人間的な冷淡さ，これが韓国人の親近感を逆なでするところに反日感情を生ずるのである。

韓国では最近までハングル一辺倒であったが，

近頃は漢字の効用が見直され，小学校でも教えるようになってきていると聞いた。漢字は絵画的要素をもち理解，記憶にすぐれた長所がある。かつ，中国，日本と共通の文化財であり，その威力を日本人に対する韓国語教育に使わない手はないように思われる。事実，日韓同じ漢字熟語が多く用いられており，漢音読みの読みかえのこつがわかれば，あとはてにをはを対応するものにとりかえるだけで，互換のきく文章も少なくないのである。これをさまたげているものは，一種のハングルナショナリズムではないかと邪推しているが，日本側から少なくとも日本人に対する韓国語教育にもっと漢字を利用することの呼びかけがあってもよいように思える。

ソウルに居る間中，ソウル大学の玄教授，尹教授はじめ多くの方々にお礼の云いようもない厚遇をいただいた。ただ感謝するのみである。変ないい方で恐縮だが，もっと簡素にしていただけたらもっとよかった。韓国から友人がきても到底同じようなおもてなしはできないからである。それはともかくとして，この機会に一言お礼を述べてソウル滞在１ケ月の結論に代えたい。

（慶畿大学の現在のキャンパス。左上部はソウル市。新キャンパスは，これよりまだ２倍以上広く，両方合わせると東大本郷キャンパスの約５倍となる。）